

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

交通誘導警備が激変するかもしれない

先般の新聞記事に自動運転技術がレベル3に向かい、メーカーの開発競争が一段と激しくなるとありました。レベル3とは自動運転技術の中でも無人化に向けた完全自動化への手前段階でドライバーがハンドルを持たなくて良い段階らしいのです。

自動運転といっても、これまでの技術ではドライバーは手のひらを上向きにして膝に置き、万が一のときはハンドルをすぐに掴めるスタイルの維持を余儀なくされています。

以前、矢沢永吉がそのスタイルで自動運転を体験するテレビCMを見ましたが、「ただの手放し運転じゃないか？」とこどもの頃に自転車の手放し運転ができるようになった日の感動が台無しになるような滑稽さすら感じたのです。

私どもは総合警備業を志向しており、その中のひとつが交通誘導業務となっております。もし自動運転車が普及し、車が完全無人化したとき、車外から警備員が「止まれ!!!」と大声で静止しようとしたらどう反応するのか？信号のない路上の警備員が誘導棒で指示する方向にきちんと方向転換できるのか？といったことが社内でも議論になりはじめています。



必ずしも自動運転技術の普及で悲惨な交通事故が減ったり、社会問題となっている高齢ドライバーのぼんやり運転が無くなるとは到底思えないのです。私は(警備員は)車とすれ違う数十メートル手前から、ドライバーと目を合わせることで自らの安全を守っています。便利さを追求した技術の進歩が別の危険を運んでくることも忘れてはいけないと思うのです。



当社では毎年、たくさん的高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

 松本 隆一郎